

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.53



スマホはガマンを訓練させる ために持たせる

NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原嘉一（しのはら・かいち）

年末年始、スマートフォン（スマホ）やゲーム機

のニンテンドースイッチなどを手にする子どもが増えることだろう。小学生はおもちゃより、ゲーム機がプレゼントの大半を占めている。低学年もテレビのネット機能を使って音声検索で調べ物をしている。最近の特徴として、アマゾンなどから販売されているテレビ接続型のネット端末や、ネット対応テレビが普及し、大画面でネットを楽しむ幼い子どもが増えている。

ネットを使ってゲームを楽しむことが普通になってしまった環境で、スマホを持たせないことが無意味になってきた。これまでは、子どもたちにはスマホを与えないという傾向にあったが、ここまでネットにつながる端末が増えてしまうと、「持たせない」ということは「スマホだけ」を持っていない環境となる。ネットにつながる端末を数えてみると①スマホ②タブレット③パソコン④ゲーム機⑤ポータブル音楽プレイヤー⑥機種変更後⑦解約スマホ⑧テレビ⑨Aースピーカー等――

各家庭には複数台のネット端末が存在する。特にテレビでネット接続し、子どもがユーチューブを見ていることを知らないお母さんは多い。

スマホを持つていないだけ、の環境は社会に出たときにトラブルを招きやすい。早くからスマホを持つている子どもはリスクも経験しているが、高校生になってから持ち始めるとネット依存になりやすいようだ。スマホを片時も手放せない人は、大きくなってからスマホを与えられた学生に多い。今は「持たせてガマンを体験させる」ためにスマホを与えるのだ。幼い頃にゲーム機を買い与えたなら「1時間でやめるガマン」「学校に持つていかないガマン」、そのガマンができたなら、スマホを与えるときに「使い過ぎないガマン」「学校に持つていかないガマン」「人と話すときは触らないガマン」を中学生から体験させる。

高校生は学校への持ち込みを許可されているが、基本は校内では使用しないルールが大半だ。「学校には持つていくが、校内ではカバンから出

さないガマン」が自然とできるようになる。小学生時代から12年かけて「持つているけど、場所をわきまえて使う」ことが体験できている人は社会に出てもトラブルを起こす側にはならない。

テレビで話題になっていた、お相撲さんの問題も、先輩が大切な話をしていて時はスマホを見ない常識が身につけていると大事には至らなかったはずだ。そういう意味でも、大人のスマホトラブルは社会問題となっている。運転中スマホでポケモンをして退職に追い込まれる運転手、勤務中の投稿で揚げ足を取られる社会人、ウケ狙いで動画を投稿し、ネットを炎上させてしまう行為も、リスクが理解できていない大人の特徴だ。

子どもの頃にリスクを教えられ、ゲーム機でガマンを体験してから、スマホを与えられた子どもは、高校生ぐらいになると、自然とガマンが身についている。高校での指導は「校内では使わない」という、場所をわきまえて使う訓練だ。ICT（情報技術）の授業で使用するタブレットも、必要な授業の時だけ操作する。必要のない授業の時は、カバンから出さない訓練。この12年かけた仮免許期間を経て、大学生になると講義の途中でスマホに気を取られる学生もいなくなるだろう。

社会性を身につけるための訓練という意識に大人が変わらないと、スマホ依存が起因する社会問題は増えてしまう。スマホ依存は、薬物依存のように問題視されていないが、今回の相撲協会が揺らいでいる起因も、スマホのマナー違反から暴力行為が起きてしまったのではないだろうか。